



公益財団法人 北海道サッカー協会
審判委員会 発行
2020年11月号
2020/11/4

今年度は、各種大会のスタートが遅く、試合数は例年と比べると少なくなりましたが、感染症対策をしながら、ほぼ予定通りの日程で運営が進みシーズンも残りわずかとなってきました。残りの試合に関しても、気温の低下に伴う怪我などに留意していただきながら活動していただければと思います。

今回は、10月に札幌市で行われました「1級・女子1級・強化指定審判員研修会」の研修報告書を掲載いたします。

【2020年度(公財)北海道サッカー協会 1級・女子1級・強化指定審判員研修会 <報告>】

日程 10月16日(金)～10月18日(日)

場所 札幌市(SSAP 他・サッポロさとらんどセンター)

テーマ 説得力

審判理論「説得力とは」

審判実技「全国高校サッカー選手権大会北海道大会」



1日目の16日(金)に札幌市「サッポロさとらんどセンター」で1級インストラクターの村山 尚哉氏に講義をしていただき今年度最後の研修会を開催した。「説得力とは」をテーマに、選手に1試合を任されるためにはどんなことが必要であるかなど、グループディスカッションで積極的に意見交換をしながら確認することができた。最後に、大会のレギュレーションと感染症対策の徹底を再確認して、1日目終了した。

2日目には、サッカー2級インストラクター更新研修と合同でおこない、試合の振り返りとビデオ分析を2級インストラクターが中心になりながら、キーインシデントや今後の改善点などを確認することができた。また、2日目・3日目の試合の中で、1級審判員が模範となる動きの中で、強化指定審判員にスタンダードな動きを意識しながら、スプリントと良いアングルでの判定、適切なマネジメントを見せてくれたことで、今後のレフェリングの参考とすることができた。

■研修に参加しての感想

【高野 佑哉(小樽)】

今回の研修会は『説得力』をテーマに行われました。1日目の講義では説得力とは何か、説得力を生むためには何が必要かということグループで話し合いました。話し合いの中では態度、走力、笛の使い方、サッカー観、ポジション、マネジメント、メンタル、コミュニケーションなど様々な意見が出ました。そして、判定+説得力があることにより、チームからの信頼につながり、スムーズなゲーム展開になるということを再確認することができました。2日目からの試合では主審、副審、第4の審判をそれぞれ1度ずつ担当しました。主審を担当した試合では、どのように副審と協力することで試合がスムーズに流れたか、くり返し違反する選手に対してどのように警告を示すのか、フリーキック時のポジションの取り方などを学ぶことができました。これから今回の研修で学んだことを生かし、さらに自分自身を高めていきたいと思えます。

【一瀬 哲平(札幌)】

10月16日～18日の3日間、札幌市で行われた強化研修会に参加させていただきました。
研修会テーマは、「説得力」であり、初日に村山 INS から講義を受け、研修生同士でグループディスカッションを行い、説得力とはなんなのかを言葉の意味から紐解き、試合中にある様々な説得力について考えることができました。昨年まで、選手として関わってきた選手権に審判員として関わることに大変感慨深いものがありました。今回の選手権は、新型コロナウイルス感染拡大予防の為に対策が広範囲に施されており、私たち審判員も安心して試合を担当することができました。本当にありがとうございました。今回の研修会、そして大会を通じて感じたこと・学んだことを糧に今後の審判活動にも尽力させていただきたいと思います。

【岡 聖人(札幌)】

今研修会は強化指定審判員としての活動1年目の私にとっては初めての集合研修会となった。
研修は「第99回全国高校サッカー選手権大会 北海道大会」を使用して行われ、どの試合も高校生の思いがこもった熱い試合で、私もその思いを感じ取りながら担当する各試合に臨んだ。

今研修のテーマは「説得力」初日の座学研修では村山 INS より、どのようにすれば試合で説得力のある判定につながるのか。各グループに分かれディスカッションを行った。ここでは、走力・視野・笛の強弱やタイミング・姿勢や態度・競技規則の理解・判定の一貫性や正確性など様々な要素があると再確認した。実技では、1回戦の主審・2回戦の副審・3回戦の第4の審判員を担当させていただき、それぞれ貴重な体験をした。また、各担当試合で新たな課題も見つけることができ、私にとってさらなる成長に繋がる材料を集めるべくとても良い機会となった。さらには、今研修に参加してくださった1級審判員の方々の試合も間近で見ることができた。担当試合の空き時間では審判の様々なことに関してディスカッションする機会もあり、上級審判員の方が普段何を考えて試合を担当しているのかを知ることができた。

今研修会は私にとってとても勉強になることばかりで、それと同時に自身の未熟さを改めて感じる時間となった。この研修会で学んだことを今後の活動につなげると共に、地区の審判員へ情報を共有してお互いに切磋琢磨していきたい。また、北海道の強化指定審判員という看板を常に背負っていることも忘れずに、審判員という仕事に誇りを持って今後の活動に取り組んでいきたいと思う。

最後に、この研修会の場を提供してくださったサッカー協会の皆様、大会運営のスタッフの皆様、試合に出場していたチームの皆様、審判インストラクターの皆様、審判員の皆様に心より感謝申し上げます。